

令和 3 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02993

研究課題名(和文) グループ環境がEFL学習者の動機づけに及ぼす影響

研究課題名(英文) Effects of group environment on EFL learners' motivation

研究代表者

田中 美津子 (Tanaka, Mitsuko)

大阪大学・マルチリンガル教育センター・講師

研究者番号：70732840

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、グループワークを取り入れて英語学習を行う学習環境に焦点を当て、グループワーク環境を測る質問紙を作成した。また、グループワーク環境と学習者の個人差要因が動機づけ及び学習成果に及ぼす影響や、個人差要因がグループワークを用いたプロジェクト発信型英語学習に対する動機づけに及ぼす影響について調査した。調査の結果、動機づけを高める上でよりよいグループワーク環境を作ることの重要性や、グループワークを伴う外国語学習コンテキストにおける自己観、性差、ビリーフ、心理欲求の役割が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、英語学習者の動機づけに影響を及ぼす要因として、コンテキスト(グループワーク環境)に着目し、グループワークにおけるその役割を明らかにしたことである。外国語学習動機づけ研究分野において、グループワーク環境等のグループ・プロセス、グループ・ダイナミクスは、これまでのところあまり調査されておらず、本研究はこの分野の発展に寄与するものと思われる。また、本研究の社会的意義については、グループワークを伴う外国語学習コンテキストにおいて、グループワークをうまく機能させ、学習者の動機づけを高めるための教育的示唆を得られたことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop and examine the validity of a questionnaire in assessing group work environments. The study investigated the effects of group work environments and individual-difference variables on motivation and learning outcomes. Furthermore, the study sought to clarify the factors affecting motivation in project-based English learning contexts where group work is incorporated. The results demonstrated the importance of creating a better group work environment. It also established the significance of the roles of the learners' gender, self-construal, beliefs, and basic psychological needs in enhancing motivation for learning contexts that entail group work.

研究分野：外国語教育

キーワード：動機づけ 学習環境 グループ・ダイナミクス グループワーク 個人差要因 アクティブ・ラーニング 質問紙

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、学習者が主体的に学習に関与するアクティブ・ラーニングを実施する授業が増えてきた。アクティブ・ラーニングを行う際には協働学習・グループワークを取り入れることが多いが、学習者が身を置くグループの環境はグループによって異なる。これまでのところ、学習環境によって動機づけなどの個人差要因が変化しうることが報告されているが、学習環境として比較的少人数のグループワーク環境に着目した研究は少ない。そこで、本研究では、グループワークを伴う英語学習環境に焦点を当て、グループワーク環境と学習者の個人差要因の関係を検討し、学習者の動機づけを高め、グループワークを成功に導くための示唆を得ることを目的とする。

2. 研究の目的

本研究では主に、

- (1) グループワーク環境を測る質問紙を作成し、その信頼性・妥当性を明らかにする。
- (2) グループワーク環境が動機づけと学習成果に及ぼす影響を検証し、その影響に学習者の英語熟達度がどのように関与するのかを明らかにする。
- (3) グループによってグループワーク環境が動機づけに及ぼす影響が異なるかを検証し、さらに、個人差要因(性差、ピルーフ、心理欲求)が動機づけに及ぼす影響にグループワーク環境がどのように関与するのかを明らかにする。
- (4) グループワークを伴うアクティブ・ラーニングの学習環境において、性差、自己観が動機づけに及ぼす影響を明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) グループワーク環境に関する質問紙調査を行い、データを収集した。その後、探索的因子分析を用いて因子を抽出し、ラッシュモデルを用いて因子の構成概念妥当性を検証した。
- (2) 動機づけに関する質問紙調査を行い、グループワーク環境に関する質問紙調査への回答、学習成果、英語熟達度に関する情報と共にデータを分析した。グループワーク環境が動機づけと学習成果に及ぼす影響の検証にはパス解析を用い、英語熟達度が上述の影響にどの程度関与するのかについては調整解析を用いて検証した。
- (3) 上記(1)(2)とは別の学習者を対象に、動機づけ、個人差要因(ピルーフ、心理欲求)、グループワーク環境に関する質問紙調査を行い、英語熟達度等の情報と共にデータを分析した。分析にマルチレベル分析を用いることで、グループワーク環境が動機づけに及ぼす影響について集団レベル(グループレベル)で分析を行い、グループごとの環境の差異が動機づけに及ぼす影響について検討した。また、マルチレベル分析を用いてレベル間交互作用効果を検討することで、個人差要因(性差、ピルーフ、心理欲求)が動機づけに及ぼす影響にグループワーク環境がどの程度関与するかについて検証した。さらに、重回帰分析を用いて、これらの要因が学習成果(英語熟達度)にどのように関係するのかを検証した。
- (4) 上記(1)(2)(3)とは別の学習者を対象に、動機づけ、自己観に関する質問紙調査を行い、パス解析等を用いて、性差、自己観が動機づけに及ぼす影響を検証した。

4. 研究成果

- (1) グループワーク環境を測る質問紙については、探索的因子分析を用いて2つの因子(「group cohesion」と「group engagement」)を抽出した。クロンバックの α は、それぞれ.91と.85で内の一貫性が十分に高い尺度であることを確認した。その後、ラッシュモデルによる種々の分析を行い、構成概念妥当性が高い尺度であることを示した。
- (2) グループワーク環境が動機づけと学習成果に及ぼす影響については、パス解析の結果、個々の学習者は、自身のグループの結束が強く、グループメンバーが活動によく取り組んでいると認知するほど強く動機づけられる傾向にあることが明らかになった。また、グループワーク環境は学習成果に直接影響を及ぼすものではないが、強く動機づけられている学習者ほど高い学習成果を得る傾向にあったため、グループワーク環境は動機づけを介して間接的に学習成果に影響を及ぼしうることがわかった。さらに、調整解析の結果、グループワーク環境が動機づけや学習成果に及ぼす影響は、学習者の英語熟達度によって左右され

ないことも明らかになった。

- (3) グループごとの環境の差異が動機づけに及ぼす影響については、マルチレベル分析の結果、グループワーク環境が動機づけに及ぼす影響は、グループによって異なり、集団レベルでも有意であることが明らかになった。つまり、グループの結束が強く、グループメンバーが活動によく取り組んでいるグループほど、メンバーはより強く動機づけられる傾向にあることがわかった。また、個人差要因（性差、ビリーフ、心理欲求）はすべて動機づけに顕著な影響を及ぼし、女子学習者と自律性・有能性の欲求が満たされ、グループワークに対してより肯定的なビリーフを有する学生は、より強く動機づけられる傾向にあった。動機づけに影響を及ぼすグループワーク環境と個人差要因の相互作用については、ビリーフが動機づけに及ぼす影響についてはグループによって異なるものの、グループワーク環境には個人差要因が動機づけに及ぼすポジティブな影響をさらに強めるほどの力はないことがわかった。さらに、重回帰分析の結果、動機づけが高い学習者と女子学習者は学習成果（英語熟達度）が高い傾向にあり、性差については直接的及び間接的に、グループワーク環境とその他個人差要因（ビリーフ、心理欲求）については、動機づけを介して間接的に学習成果（英語熟達度）に影響を及ぼすことがわかった。
- (4) 性差、自己観が動機づけに及ぼす影響については、パス解析等の結果、自己を他者との結びつきにおいて捉え、人間関係をより重視する傾向にある相互協調的自己観が優勢な学生と女子学習者は、グループワークを用いたプロジェクト型学習により強く動機づけられる傾向にあることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Mitsuko Tanaka	4. 巻 0
2. 論文標題 Individual perceptions of group work environment, motivation, and achievement	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Review of Applied Linguistics in Language Teaching	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/iral-2020.0183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuko Tanaka	4. 巻 43
2. 論文標題 Evaluating a scale's construct validity to assess the group work environment using the Rasch model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JALT Journal	6. 最初と最後の頁 82 ~ 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.37546/JALTJJ43.1-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Gender differences in motivation to learn English
3. 学会等名 The 2019 biannual combined Applied Linguistics Association of Australia (ALAA) and the Applied Linguistic Association of New Zealand (ALANZ) conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Group functioning in EFL group work
3. 学会等名 The 45th annual international conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Individual perceptions of group work environment and L2 learning motivation
3. 学会等名 The 3rd international Psychology of Language Learning conference (PLL3) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中 美津子
2. 発表標題 グループワーク環境が動機づけに及ぼす影響
3. 学会等名 動機づけ研究会(関西)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Effects of group work environment on motivation and learning outcomes
3. 学会等名 The TESOL 2019 International Convention & English Language Expo (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Measuring group work dynamics
3. 学会等名 The 43rd annual international conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Group effects of environment on motivation in L2 group work
3. 学会等名 The American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2021 Virtual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中美津子
2. 発表標題 プロジェクト型学習において性差および自己観が動機づけに及ぼす影響
3. 学会等名 第3回JAAL in JACET学術交流会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mitsuko Tanaka
2. 発表標題 Gender, self-construal, and project-based learning
3. 学会等名 The 46th annual international conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>目的(3)(4)に関し、以下2本の論文を投稿済み(現在査読中)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Tanaka, M. (under review). Effects of context and individual differences on motivation in L2 group work. • Tanaka, M. (under review). Effects of gender and self-construal on motivation in active learning.
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------